



「歌い継がれて ～母校の校歌～」

サンホセ日本人学校 校長 半山章人

10月1日 児童生徒による「アペルトゥーラ ～剣道と音楽のコラボレーション～」で幕が開いた創立51周年開校記念日。本校の校歌の作曲者である八木哲夫様(コスタリカ在住)にご講演いただくとともに、その場で校歌の歌唱指導もしていただきました。八木哲夫様は、1975年にJICA協力隊員としてコスタリカに来られ、コスタリカ国立交響楽団元バイオリン奏者として40年間現役で活躍されました。その傍らで附属音楽学校においてスズキメソッドの指導にも力を入れられ、今のコスタリカの音楽教育の素地づくりに貢献されました。また、6年間の長きに渡り、本校の学校運営委員長として学校を支えていただきました。1977年にサンホセ日本人学校の繋がりを大切にしたいとの思いで、校歌を作曲されました。八木様が校歌の中で一番好きな部分は「希望に燃ゆる」の部分だそうです。(作詞者：中島和子様)

児童生徒のお礼の言葉より：「八木先生のことをたくさん知ることができ、校歌が、どのような思いで作られたのかなどを知ることができてよかったと思います。また、校歌の歌い方も教えてもらって、前よりも上手に歌えるようになったと思います。(中略)これからは校歌を歌う時には一つ一つの言葉を大切に歌います。」「私たちが知らないサンホセ日本人学校の過去がわかり、興味深く思いました。校歌を大切にする思いを次につないでいきたいです。」

子どもたちは、これからさき、それぞれの道に進みますが、コスタリカでの生活を振り返るとき、友達の笑顔とともに母校サンホセ日本人学校の校歌を思い出し、その歌声がこれからの歩みを励ます力になることでしょう。

「世界の友と手をつなぎ 心も通う まなびやよ」 「風もやさしい モラビアの 教える庭よ どこしえに」

「安全教育」 ～大阪教育大学 藤田大輔先生のお話～

本校は、本年度文部科学省の「特色ある在外教育活動支援実証事業」の実践校として、大阪教育大学の藤田先生のご助言や(株)コーエイリサーチ&コンサルティングのご支援を受けながら、安全教育の再確認を行っています。今回は児童生徒、職員、保護者が出席し、オンラインにより日本に帰国してからの安全教育についてお話いただきました。「危険とは何なのか」「危険に気づく力」そして「危険を安全な環境にするために考える力を身につけてほしい」と今回のお話の中心になる発問をされ、「安全は一人で作るのではなく、みんなで作る」「困っている人がいたらみんなで集まって助ける」など防犯対策の中に人としての大切さを教えていただいたご講演でした。さらには「見た目だけで人を判断しない」など、コスタリカでの生活にも通じる内容があり、児童生徒にとって身近に考えるきっかけになったのではないかと感じました。



【コーヒー豆の収穫】



【コーヒー豆の乾燥】



【グアルダさんにスペイン語で】



【安全教育の講話】

3日(月) 集金日 委員会	21日(金) 宿泊学習(2日目) カチ湖方面
4日(火) 職員会議(5時間授業)	24日(月) 創作舞踏集団「寶船」来校
7日(金) 宿泊学習 事前学習発表会	25日(火) 研修(5時間授業)
岩崎圭一氏 来校	26日(水) サンフランシスコ校交流(午後)
18日(火) 2学期期末テスト範囲発表	小学6年・中学部
20日(木) 宿泊学習(1日目) カルタゴ方面	28日(金) クラブ(後期③)

